

地球規模保健課題解決推進のための研究事業（日米医学協力計画）
「日米医学協力計画の若手・女性育成のための日米共同研究公募」
課題評価委員会事後評価意見

研究開発課題名	Determination of bedaquiline and delamanid minimum inhibitory concentrations in well characterized Mycobacterium tuberculosis strains / 十分に特性解析された結核菌の bedaquiline および delamanid の最小発育阻止濃度の決定
研究開発機関	国立病院機構近畿中央呼吸器センター
研究開発代表者・役職	吉田 志緒美・流動研究員
研究開発期間	令和 5 年 9 月 15 日 - 令和 7 年 3 月 31 日

○課題評価委員会事後評価意見

評価された成果

- 結核菌最小発育阻止濃度（MIC）画像解析装置の導入とその技術指導により、MIC 測定法の基盤技術をフィリピンで確立した。本研究で蓄積したデジタル画像データを活用した検査のその他の国への展開、本基盤技術の他の薬剤や病原体への展開が期待できる。
- フィリピンでの技術指導により、MIC 測定データの精度が大幅に改善されるとともに再現性が向上し、現地スタッフのスキル向上と検査手順の標準化が実現された。

課題・改善点

- フィリピンから結核菌株の輸出許可がおりず、WST-1（Water-Soluble Tetrazolium）測定など当初研究計画の一部が未実施である。抗結核薬の交差耐性および薬剤間相互作用の実態把握とメカニズムの解析のため、菌株輸出について代替案の検討が望まれる。
- 研究成果を一般化するため、他国データとの定量的な比較解析等が望まれる。
- 米側研究者の貢献と、若手研究者の育成についての記載が求められる。